

大久保 帝二 議員



問 地域公共交通について

答 町として必要な公共交通体系の構築を目指す

問 ごかりん号が1年目でルートを変更した経緯は。

生活安全課長 日中ルートは全行政区を通ることを目途にスタートした。利用状況は特に大福田・山王方面を回る東ルートの利用者が減少傾向で、東西ルートとも利用バス停が限定的で、利用者がゼロのバス停もあった。そこで、アンケート調査でニーズの高かった南栗橋駅へのアクセス、利用者の多いバス停を中心に、毎日同じルートを通じ時間に通ることによって定着が図れるという中で、ルートを変更した。

問 利用者の増加も大切であるが、ルートがなくなった地域の方には残念な思いがある。

そうした、ルート見直しで遠のいた沿線住民への配慮は。

生活安全課長 社会福祉協議会へ委託して実施している公共交通空白地有償運送の周知徹底を図り、推進していき

たい。この事業は、バス停までの移動が困難な方や高齢者の通院、買い物等のドア・ツー・ドアの移動手段として有効な事業であり利用促進を図っていく。

問 今後の取組みは。

町長 幸手駅とを結ぶ「路線バス」、南栗橋駅とを結ぶ「ごかりん号」、高齢者等の生活を担

う「公共交通空白地有償運送事業」の3つをミックスさせ、交通弱者と呼ばれる方々の移動手段を確保する。町の情勢の変化等も見極めながら、町として必要な公共交通体系の構築に努めていく。



新規導入した「ごかりん号」

問 県道幸手・境線上船渡橋の安全対策について

答 幸手市と連携し進めていく

問 上船渡橋の安全対策として、片側交通で信号機設置は。

都市建設課長 上船渡橋前後で3か所信号機が続き、これ以上の設置は難しい。

問 上船渡橋の架け替えの見通しは。

都市建設課長 橋を所管する杉戸県土整備事務所に確認したところ、現在は(仮称)新上船渡橋の整備を最優先で進めており、現橋の架け替えは、新橋の完成後の中川河川改修事業により関

係機関との綿密な協議調整を図った上で進めていきたいとのことである。

町長 今後、埼玉県へ幸手市とともに強く要望していく。